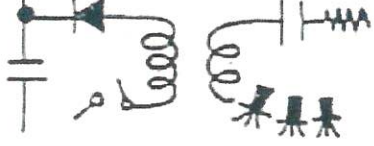


CQ かすかじ



JA2YDX



No. 646. MAR. 2025

春日井アマチュア無線クラブ

## 図書紹介

### 「僕には鳥の言葉がわかる」(小学館)

農作物を中心とした植物を農学部で学び、教職に就いて、中高生に生物を教えるために来ました。その中で、動物についての知識の不足を思い、特にその生態を中心に興味を持ち、本格的に学ぶようになったのが、40代になってからです。

職を離れてもうすぐ、四分の一世紀近くになります。今でも新刊案内があると手に入れてあります。そんな中、最近届いた中から、表題の「僕には鳥の言葉がわかる」を紹介します。



古代ギリシャ時代から現代まで、言葉を持つのは人間だけだと決めつけてきた。しかし、シジュウカラたちは、それが間違いであることを教えてくれた。人間には人間の言葉があるように、鳥には 鳥の言葉がある。

著者は、長年シジュウカラを観察・研究し、鳥の言葉を解明し、動物言語学を切り開いた、東大准教授、鈴木俊貴(動物言語学者)です。

「シジュウカラ(四十雀)は、和名は地鳴きの「ジジジッ」が「シジュウ」に聞こえることに由来する説やスズメの40倍珍しいことに由来する説などがある。」



#### シジュウカラの言葉一例

ヂヂヂヂ=集まれ

ヒヒヒ=鷹を見つけた

ビビビビビ=餌をねだる雛のの声

ツツピーツツピー=縄張り宣言

ジャージャー=蛇という意味の声

ピーツピ=警戒しろ

ピーツピ・ヂヂヂヂ=警戒して・集まれ

この他、手元には、著者、鈴木俊貴氏が、犬山モンキーセンターや我が故郷屋久島で日本ザルやアフリカでゴリラなど霊長類を研究され、京大総長を務めた山極寿一氏との対談集「動物たちは何をしゃべっているの?」があります。(写真=Wikipedia)

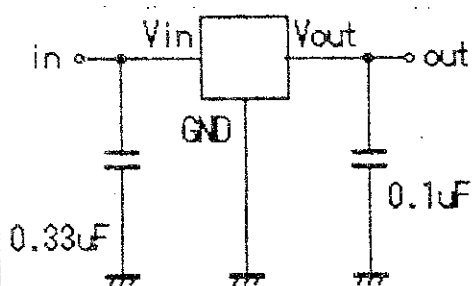
by JA2SZX

<p>正(+) 出力3端子レギュレータ</p> <p>78**</p>	<p>負(-) 出力3端子レギュレータ</p> <p>79**</p>
<p>78L**</p>	<p>79L**</p>

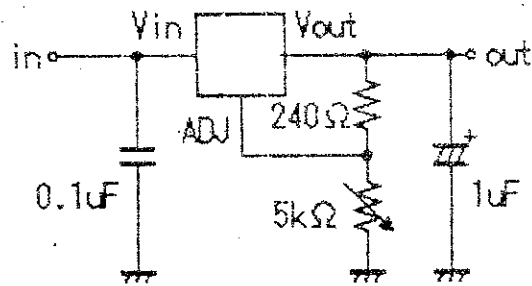
<p>正(+) 出力電圧可変レギュレータ</p> <p>LM317T LM350T LM338T</p>	<p>負(-) 出力電圧可変レギュレータ</p> <p>LM337T</p>
<p>LM317LZ</p>	<p>LM337LZ</p>

- 回路例 -

正(+)  
出力3端子レギュレータ



正(+)  
電圧可変型レギュレータ



- ・負(-)出力のレギュレータの場合はコンデンサ等の極性は逆になります。
- ・コンデンサや抵抗等の値は仕様により異なります。

参考にはならないと思います失敗談を掲載します。笑って下さい!!

デスクトップのPCでワードを開いたらサイズがA4だろうが、L版であろうが関係なくサイズ枠の表示もなく何故か白一色、前日までは何ともなかった。文字入力しても配置が分からず印刷プレビューで確認する状態になった。文字入力毎にプレビューで確認しなくてはなりません。それはやっかいな事です。

過去に「システムの復元」を利用した事あり試してみる事に、復元を開いたら〇年△月×日に戻しますか?と聞いてきたので素直に指示の日付をクリックすれば問題なかったと思う。過去に復元した時は指示日付を素直にクリックしたので問題なかったが今回勝手に日付変更して Goo、これが**大ポカ**の始まり、「復元完了」とメッセージが出たので、立ち上げるも(写真下)のメッセージが出てクリックし行すが、結局は稼働せず、もがけばもがくほど深みにはまるばかりで身動き取れない状態となってしまった。



平野自動車内に事務所を構えている「kps パーソナル」岸さんへ持ち込み一週間入院後復帰する。通常は使用可能となったのでビデオ編集ソフトをインソールするも受け付けずこれでは編集が出来ず「参った!参った!」です。再度入院、

さすがはプロ苦労したと言われましたがインソールして頂き開いたら編集済の作品と未編集の作品が再生され画面を観た時の感動感激は忘れません。ホットしたのもつかの間また問題が、ナレーター用のソフトがバージョン違いでインソール出来ません、今度はJH2DJBに「HELP」なぜなら8mmフィルム時代からビデオ時代への切り替えのアドバイス指導はJH2DJB、映像関係ではことある毎にDJBにSOS、今回もソフト持参でインソールして頂きこちらもOKとなり未編集の作品も制作に入る事が出来ました。感謝感謝であります。

勉強になりました。

## 第2節 軍需産業都市

**勝川都市計画** 明治から太平洋戦争が終わるまでの間に、愛知県内で市制を施行した都市は、名古屋市、豊橋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、豊川市の8都市であった（表2-5-2）。これらの都市の都市計画が適用された年次をみると、名古屋市から瀬戸市までは市制施行後に都市計画を申請して、内務省から適用が認められているが、半田市、春日井市、豊川市は都市計画が適用された後に市制施行が行われている。

昭和8年（1933）5月に都市計画法が改正され、都市に加えて町村にも都市計画法の適用が可能となった。都市計画愛知地方委員会は、人口1万人程度の小都市を対象として都市計画適用候補を選ぶ作業を進めた。昭和9年（1934）

に、刈谷、安城、西尾、古知野、蟹江の5町、昭和10年（1935）7月に、小牧、守山、犬山、津島、拳母、蒲郡、半田、成岩、亀崎の9町、昭和12年（1937）5月に豊川、鳴海、高浜、勝川の4町、昭和14年（1939）3月には稲沢町が都市計画の適用を受けている。こうした背景には、内務省が進める都市計画が大都市中心から中小都市

へと展開したことによるものであった。しかし、ほとんどの小都市は街路計画などの具体的な都市計画事項の決定はされず、都市計画区域のみが決定されただけであり、街路網や土地区画整理が具体的に進行した町は、勝川、豊川、拳母など、戦時下の重要な軍需工場が設置された小都市に限定されていた。

昭和11年（1936）9月に、勝川町は町会の決議により内務大臣に都市計画法の適用を申請し、翌12年（1937）10月5日に、内務省告示第590号で勝川町を都市計画区域にすることが決定された。昭和14年（1939）に、「勝川都市計画区域一般図」が完成し、その後、道路網計画が決定された。続いて、土地区画整理事業が決定されている。鷹来村会議事録によると「昭和15年（1940）7月28日に、勝川都市計画はいわゆる軍都都市計画にして軍工廠を中心とするものであり、勝川町以下4か町村をもってするものなり」とし、鷹来村の追加が行われている。昭和17年（1942）3月25日には、鳥居松村・篠木村の土地区画整理組合に鷹来村の編入を決めている。

純農村であった東春日井郡の4か町村には、第一毛織紡績（勝川町）や不二見焼タイル（鳥居松村）の工場に加えて、鳥居松工廠の建設予定地が地図上に示され、用地造成用の庄内川砂を運ぶための線路が描かれている。昭和14年（1939）3月測図の「愛知県勝川都市計画区域一般図」（図2-5-3）では、勝川町と鳥居松村の全域、篠木村と鷹来村は一部のみが描かれている。鳥居松製

表2-5-2 昭和20年8月15日以前に誕生した都市

都市名	市制施行年	都市計画適用年
1 名古屋市	明治22年（1889）10月1日	大正9年（1920）1月1日
2 豊橋市	明治39年（1906）8月1日	大正12年（1923）7月1日
3 岡崎市	大正5年（1916）7月1日	大正14年（1925）4月1日
4 一宮市	大正10年（1921）9月1日	大正14年（1925）4月1日
5 瀬戸市	昭和4年（1929）10月1日	昭和5年（1930）9月1日
6 半田市	昭和12年（1937）10月1日	昭和10年（1935）7月12日
7 春日井市	昭和18年（1943）6月1日	昭和12年（1937）5月11日
8 豊川市	昭和18年（1943）6月1日	昭和12年（1937）5月11日

造所の建設予定地は、破線で囲まれている。

こうした都市計画には表れていないが、中央本線鳥居松駅から鷹来工廠を経て西山分工場への陸軍専用の側線が敷設され、原材料の工廠への運搬や完成品の出荷に利用された。また、未完成に終わったが、名鉄小牧線の小牧駅から鷹来工廠への電気鉄道の開設が計画され、工事が進められていたことが、戦後の空中写真で確認できる。ほかにも鳥居松と鷹来の工廠の開設に

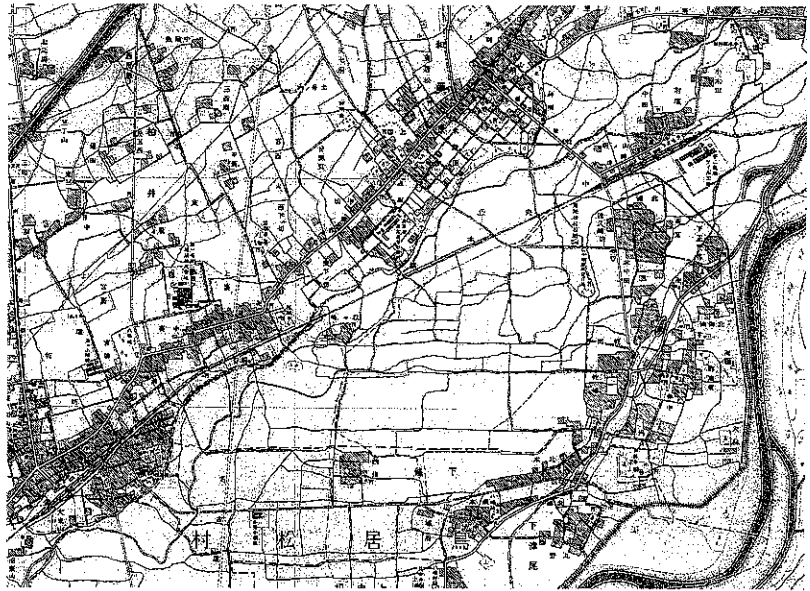


図 2-5-3 「愛知県勝川都市計画区域一般図」  
(昭和14年3月測図(都市計画愛知地方委員会) 個人蔵)

伴い、名古屋憲兵隊鳥居松分隊、名古屋職業指導所鳥居松出張所、春日井郵便局鳥居松分室、春日井郵便局田楽分室など、国の機関が次々と設置された。鳥居松製造所と鷹来製造所の設置前の状況は、各町村の「土地法典」に記載の公共施設名をみると、純農村地帯であったことが分かる(表2-5-3)。

表 2-5-3 「土地法典」記載の公共施設名

	勝川町土地法典 (昭和14年)	鳥居松村土地法典 (昭和12年)	篠木村土地法典 (昭和12年)	鷹来村土地法典 (昭和12年)
面積	14.28万坪	8.39万坪	17.66万坪	7.46万坪
人口	11,032人	6,231人	8,186人	3,183人
公共施設	町役場、勝川警察署、駐在所3か所、名古屋土木、東春日井郡農会、名古屋区裁判所	村役場、駐在所1か所、名古屋水道出張所	村役場、駐在所3か所、篠木郵便局、隔離病舎	村役場、駐在所1か所、鷹来村郵便局
学校	勝川尋常高等小、第一尋常小、第二尋常小	鳥居松尋常高等小、小野尋常小	篠木尋常高等小	鷹来尋常高等小、牛山尋常小
金融機関	大垣共立勝川支店、同春日井出張所、勝川信用販売購買組合	鳥居松信用販売組合	大垣共立銀行鳥居松支店、篠木信用組合	鷹来信用販売購買組合、牛山信用購買組合
民間工場	第一毛織紡績、東邦電力味美変電所、大同電力勝川変電所、東邦電力勝川代理店	不二見焼合資会社		昭和蚕業、伊藤蚕業、長谷川蚕種
その他	名鉄春日井停留所、同味美停留所、同春日井口停留所	中央本線鳥居松駅 中央本線勝川駅		名鉄牛山停留所、名鉄間内停留所

注：人口は、昭和15年(1940)である。

昭和15年（1940）2月8日内務省告示44号で、勝川都市計画区域に鳥居松村と篠木村が加えられた背景には、昭和13年（1938）に鳥居松製造所の第一次用地買収が完了していたこと、翌14年（1939）2月には敷地造成と工場建設が開始されていたことによる。さらに、昭和15年（1940）8月22日内務省告示473号で鷹来村が加えられた理由は、同年1月に鷹来製造所用地買収が始まっていたからであった。勝川都市計画区域は、勝川町の1町から勝川、鳥居松、篠木、鷹来の4町村となり、ここに春日井市誕生の基礎ができています。勝川都市計画区域が4町村に拡大した後、昭和16年（1941）9月19日内務省告示第542号によって初めて、勝川都市計画街路が決定されている（図2-5-4）。

大規模な街路計画は、幅員22mの1等大路第3類が5路線、幅員16mの2等大路2類が9路線、幅員12mの2等大路3類が18路線、幅員8mの1等小路が9路線の合計41路線で、総延長は111kmであった。都市計画愛知地方委員会が内務省に申請した時の理由書には、勝川都市計画の目的とそれぞれの街路の役割についての説明が書かれている。3か村にまたがって計画された軍需工場の建設によって、勝川都市計画区域が将来新興工業都市として発展することが予想されること、そのために秩序ある道路網などを決定しておくことが必要であるとしている。

表2-5-4は、重要道路である1等大路の5路線と2等大路の9路線、後に軍都都市計画街路に指定される2等大路第3類1路線の合計15路線を表したものである。理由書には、各街路の設置理由が書かれている。

1等大路第3類①番Aは、鳥居松駅から現在の国道19号の梅ヶ坪交差点を經由して、鷹来工廠南門（現名城大学農学部附属農場南）に至る。同②番Bは、国道19号の六軒屋交差点から東へ、同③番Cは国道19号を六軒屋交差点から勝川までの重要道路で、旧市街地と新市街地の中央を通っている。同④番Dは勝川駅前から味美線と八光線の各基点を結ぶ街路、同⑤番Eは鷹来工廠東辺と南辺を直角に結ぶ重要道路としている。①番の鳥居松駅から鷹来製造所への道路の建設は終戦までに完成できず、戦後は市道の一部となっており、②番と③番は国道19号となっている。このように、現

表2-5-4 軍都都市計画街路

街路番号	等級	種類	番号	街路名称	起点	終点	経由地	幅員	地図
1	3	①		山ノ前郷裏線	鳥居松村和爾良	篠木村南下原		22m	A
1	3	②		松山中原線	篠木村八幡	篠木村八幡		22m	B
1	3	③		松山秋葉前	篠木村八幡	勝川町勝川	鳥居松村和爾良	22m	C
1	3	④		勝川駅前線	鳥居松村松河戸	鳥居松村松河戸		22m	D
1	3	⑤		菅ノ廻間北山	鷹来村田楽	鷹来村田楽	篠木村南下原	22m	E
2	2	①		町割町屋線	篠木村八幡	鷹来村田楽	鳥居松村和爾良	16m	F
2	2	②		町割金ヶ口線	篠木村八幡	篠木村下市場		16m	G
2	2	③		勝川郷中線	篠木村八幡	勝川町勝川	鳥居松村和爾良	16m	H
2	2	④		町割松ノ内線	篠木村八幡	勝川町勝川	鳥居松村和爾良	16m	I
2	2	⑤		宮東西山線	鳥居松村和爾良	篠木村下原		16m	J
2	2	⑥		上東光坊堂本線	鷹来村田楽	篠木村熊野	篠木村八幡	16m	K
2	2	⑦		鳥居松駅南線	篠木村関田	鳥居松村和爾良		16m	L
2	2	⑧		北ノ田北浦線	鳥居松村和爾良	鳥居松村和爾良		16m	M
2	2	⑨		東本中裏線	鳥居松村下条	勝川町柏井		16m	N
2	3	⑩		八尻高山線	鳥居松村和爾良	勝川町春日井		12m	O

在の市の骨格となる街路は、戦時中の都市計画道路を継承したものである。

また、2等大路第2類②番Gと同④番Iは鳥居松交差点を起点に、東西にのびる現在の県道内津勝川線となり、同①番Fと③番Hも鳥居松交差点から南北にのびる現在の県道25号線（主要地方道路）となっている。この2路線は戦時中の空中写真にも写っており、ほぼ完成していたことが分かる。

愛知県勝川都市計画街路一般図

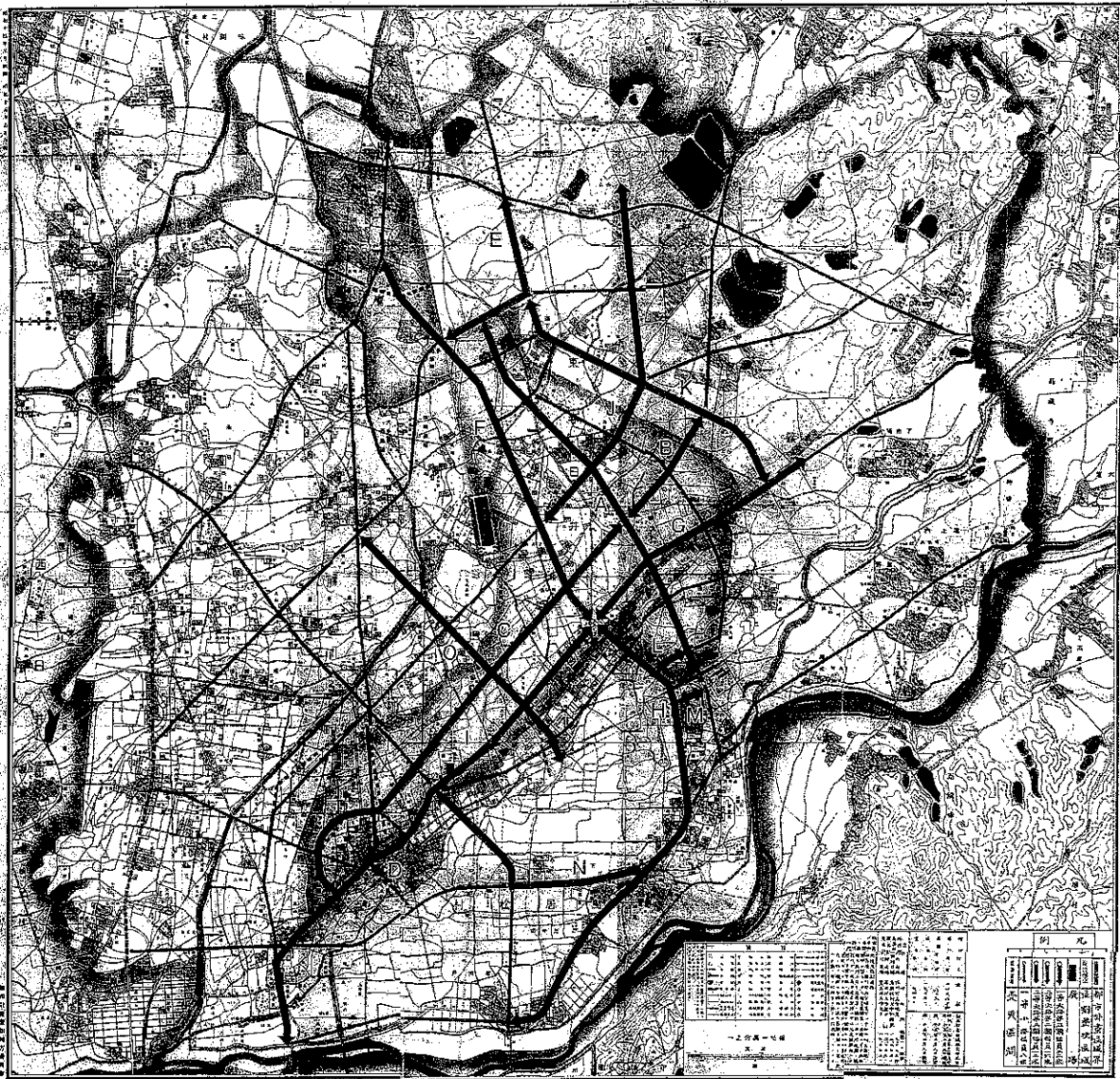


図2-5-4 「昭和16年9月19日内務省告示第542号勝川都市計画街路」付属地図  
 (愛知県公文書館所蔵に加筆)



**新興工業都市** 昭和12年（1937）の勝川都市計画は、県内の多くの町村と同様に限定された地域を対象とするものであったが、工廠の設置という陸軍の方針によって区域を拡大することになり、人口増加に伴う住宅密集などを避けるための計画的な都市建設が考えられ、内務省が推進する新興工業都市に選ばれた。新興工業都市づくりは、都市計画事業費の3分の1を内務省が補助するもので、昭和15年（1940）12月6日の大阪朝日新聞では「結構づくめの工業都市」と記載され、最終的には23都市が指定を受けている（表2-5-5）。

勝川町から出発した都市計画は、名古屋陸軍造兵廠の規模拡大による鳥居松村と鷹来村への建設決定を受けて、新興工業都市としての街路計画と土地区画整理が実行された。昭和17年（1942）6月2日に発表された工業規制地域及び工業建設地域に関する暫定措置要綱において、愛知県東春日井郡勝川町、鷹来村、篠木村、鳥居松村の当市域は規制地域となり、鳥居松と鷹来の工廠以外の新たな工場の建設は禁止された。

表2-5-5 新興工業都市の指定を受けた23都市

番号	都市名	中核となる軍事工場	軍都都市計画
1	青森県八戸	日本化学、日本砂鉄鉄鋼	
2	宮城県仙台・多賀城	多賀城海軍工廠	軍都都市計画
3	茨城県多賀	日立製作所多賀工場	
4	群馬県太田	中島飛行機太田製作所	
5	埼玉県川口	鐘ヶ淵ディーゼル	
6	神奈川県相模原	相模原陸軍造兵廠	
7	神奈川県大和	高座海軍工廠	
8	愛知県豊川	豊川海軍工廠	
9	愛知県拳母	トヨタ自動車	
10	愛知県勝川	名古屋陸軍造兵廠鳥居松製造所他	軍都都市計画
11	三重県四日市	第二海軍燃料廠	
12	三重県鈴鹿	鈴鹿海軍工廠	軍都都市計画
13	京都府宇治	東京第二造兵廠宇治製造所	
14	兵庫県広（姫路）	日本製鉄広畑製鉄所	
15	和歌山県河西（和歌山市）	住友金属和歌山製鉄所	
16	富山県東岩瀬（富山市）	不二越鋼材製鋼所	
17	岡山県福原（水島）	三菱重工業水島航空機製作所	
18	山口県周南	第三海軍燃料廠	
19	福岡県春日原	小倉陸軍造兵廠春日製作所	
20	福岡県苅田	大阪陸軍航空補給廠福岡支廠	
21	長崎県川棚	川棚海軍工廠	
22	長崎県佐世保	佐世保海軍工廠	軍都都市計画
23	長崎県大村	第二十一海軍航空廠	

**軍都都市計画** 軍都都市計画は、昭和19年（1944）5月から昭和20年（1945）6月までに全国で10都市が指定を受けている。昭和20年（1945）5月15日内務省告示189号で、春日井軍都都市計画街路事業並びにその執行年度割が指定された。軍都都市計画に指定されると、事業費の3分の2を国が負担することになる。『郡山戦災誌』によると、軍都都市計画の指定を受けようとする動きは各地であったが、指定を受けることは困難であったという。

指定された都市は、軍事上重要な都市計画が進められていた佐世保や鈴鹿、仙台・塩釜、小倉、坂ノ市、沼津、春日井の7都市に限られた。春日井の軍都都市計画は、2等大路第2類9号線の延長と幅員変更（16mを6mに縮小）、2等大路第3類第16号線の延長と幅員変更（12mを6mに縮小）のためであった。2等大路第2類第9号線は、現在の市道下条線から市道道風線に該当し、鳥居松工廠の南と西を取り囲む道路であった。2等大路第3類16号線は、現在の朝宮線に該当する路線で、計画では中央本線の線路を渡り、鳥居松工廠の北まで計画されていた。実際には中央本線の南側の段丘下段は沖積面で地蔵川の合流点があるため、現在も直角に左折する市道弥生線となっている。いずれにしても幅員を半分にしてまでも建設を急いだが、終戦までに完成することはできなかった。

軍都整備計画の進行状況を、昭和20年（1945）6月9日に米軍が撮影した空中写真でみると、八田町の名古屋水道沈殿池の位置は現在も変わっていない。写真中央部の現在の国道19号の南側には、区画整理が進むことぶき町の広場を中心に建設された鳥居松工廠の従業員住宅213戸が整然と並んでいる。また、その北側に並ぶ住宅は、鳥住（鳥居松住宅の略）と呼ばれた従業員住宅である。春見町の住宅は、まだ一部しか建設が進んでいなかった。写真2-5-5及び写真2-5-6の中のA、B、C、F、Gの道路は、表2-5-4及び図2-5-4で示す英字記号と一致している。

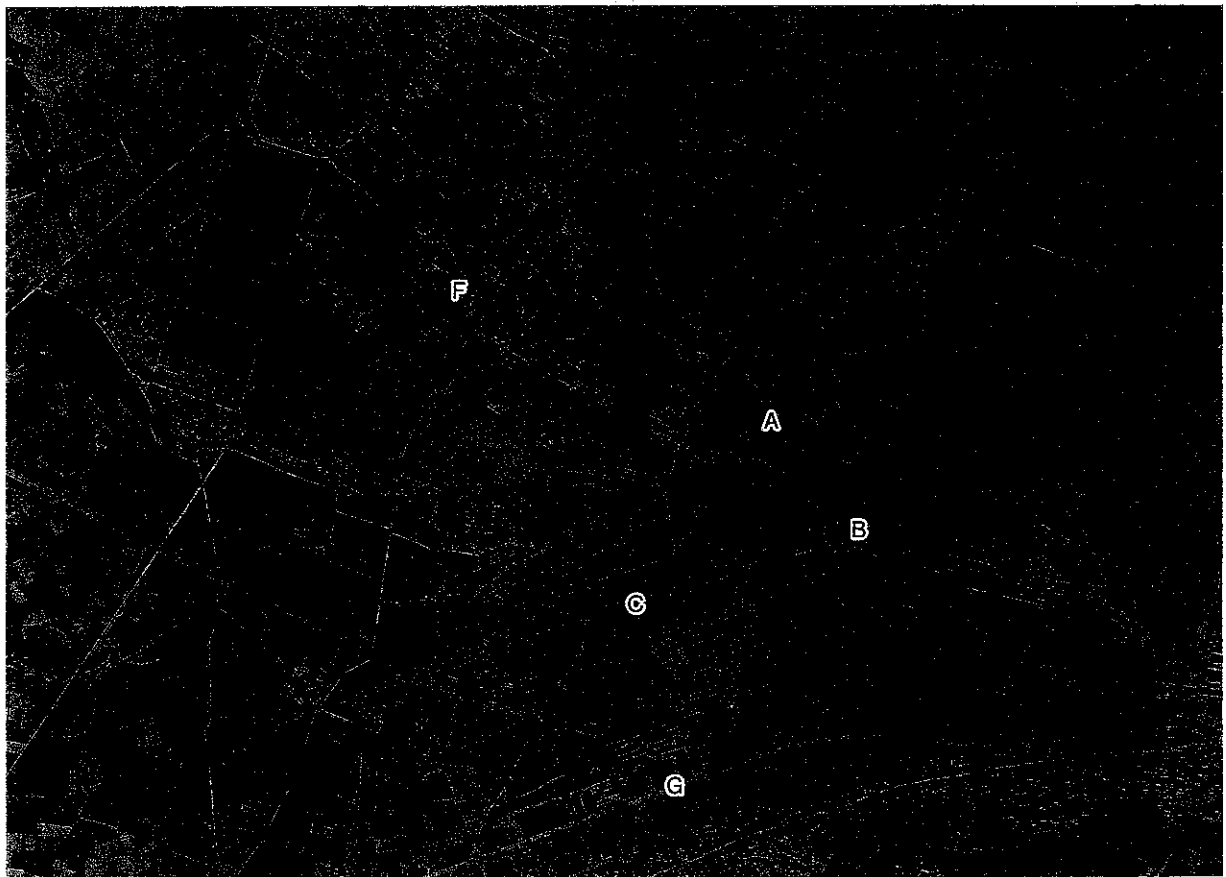


写真2-5-5 軍都都市計画街路事業の整備状況（八田町から六軒屋町周辺）

注：A、B、C、F、Gの路線は、表2-5-4及び図2-5-4の路線を示している。

（一般財団法人日本地図センター所蔵米国立公文書館空中写真 3PR-5 M277 33a 1945年6月9日撮影に加筆）

勝川町周辺では、中央本線に並行して、現在の県道内津勝川線が東西に貫いている。勝川駅の南（松新町）には、鳥居松工廠の従業員用の宿舎となる長屋が立ち並び、駅北は区画整理が進行している様子がうかがえる。中央右寄りの長方形の黒い部分は八幡社であり、左には第一小学校（現勝川小学校）がある。右上には第一毛織紡績があり、終戦時には鳥居松工廠の協力工場として九九式小銃を製造していた。現在の国道19号バイパスの造成が始まっている。

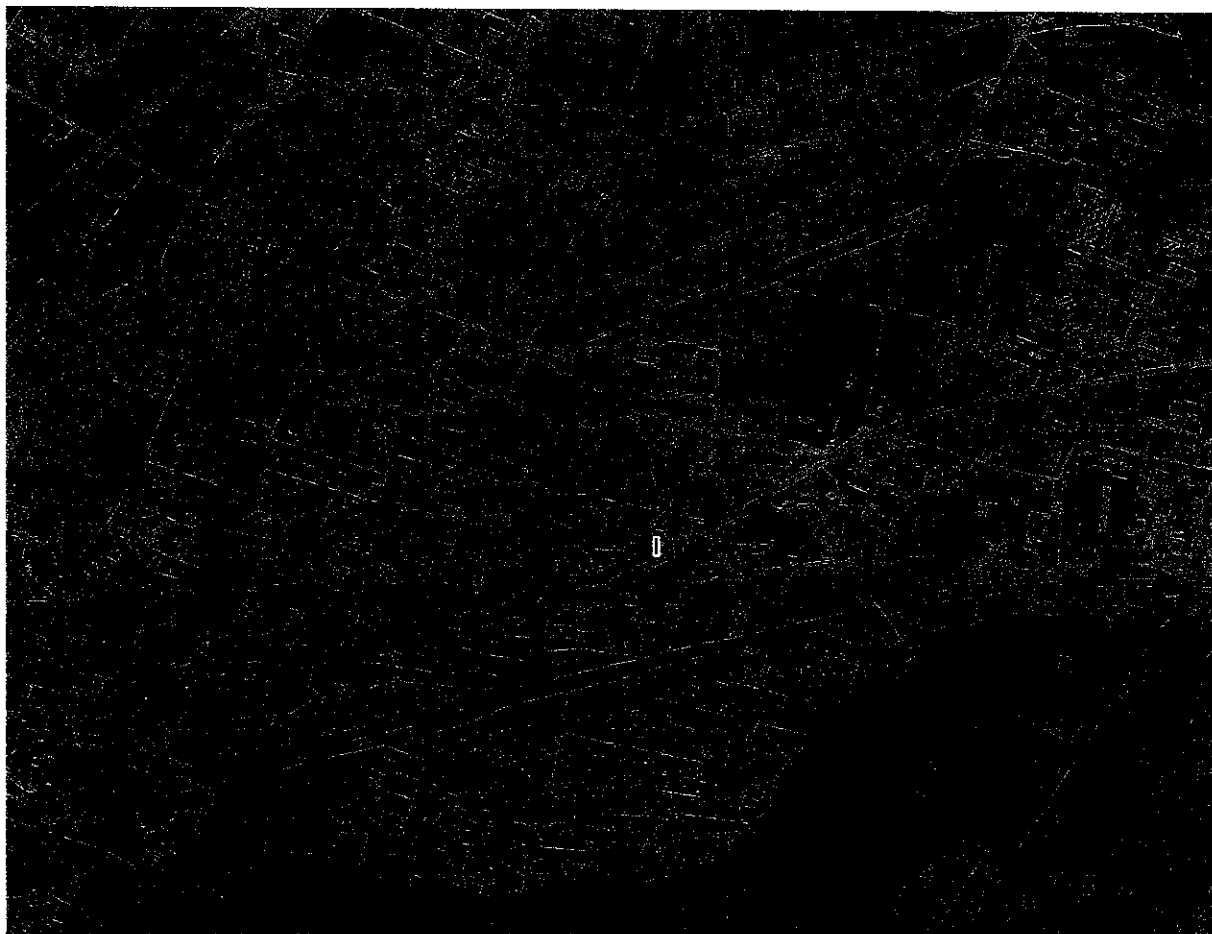


写真2-5-6 勝川駅周辺

注：Iの路線は、表2-5-4及び図2-5-4の路線を示している。

（一般財団法人日本地図センター所蔵米国立公文書館空中写真 3PR-5 M277 33a 1945年6月9日撮影に加筆）

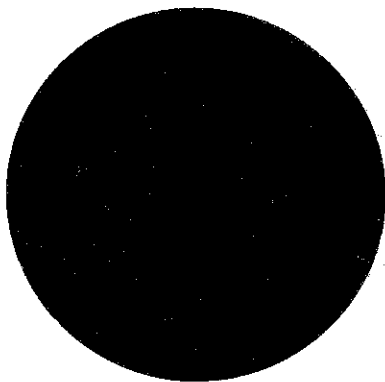
戦時中に設置された陸軍小牧飛行場跡の敷地は、豊山町、小牧町、春日井市に広がっていた。飛行場の東には、南北に一直線に伸びる県道名古屋犬山線と名鉄小牧線が走っている。右下の黒い箇所は、両社宮神社の森である。飛行場の周辺には、戦争末期に高射機関砲陣地、飛行場から軍用機を隠すための掩体（コンクリート製のシェルター）、誘導路、非常用の仮滑走路が造られていた。勝川都市計画街路にはなかった集落を迂回して、東へ伸びる誘導路が造られていたのである。



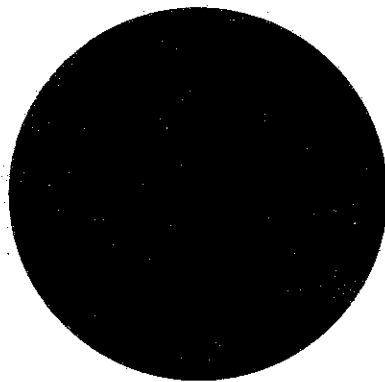
写真 2-5-7 陸軍小牧飛行場周辺

（一般財団法人日本地図センター所蔵米国立公文書館空中写真 3PR-5 M277 31b 1945年6月9日撮影）

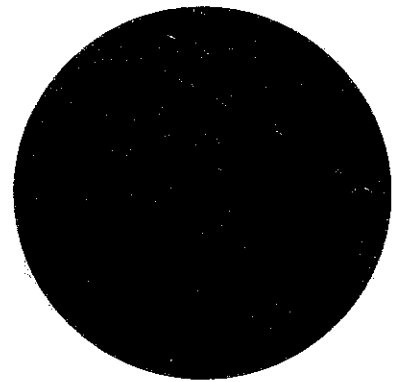
宮町周辺では、飛行場関係の施設が設置されていた。現在の西部ふれあいセンター付近には、空襲から軍用機を保護する掩体が設置された。また、飛行場から掩体までの誘導路が造られ、軍用機が地上を移動していた。



防空陣地 (拡大)



掩体 (拡大)



掩体 (拡大)

写真 2-5-8 宮町周辺

(一般財団法人日本地図センター所蔵米国立公文書館空中写真 3PR-5 M277 32b 1945年6月9日撮影に加筆)

軍都として誕生した当市は、昭和20年（1945）8月15日の終戦によって、軍都の象徴であった工  
 廠がなくなり、工廠跡地に平和産業を誘致して再出発することになった。昭和22年（1947）の春日  
 井都市計画区域一般図には、陸軍工廠跡地の巨大な空白地がみえる（図2-5-5）。

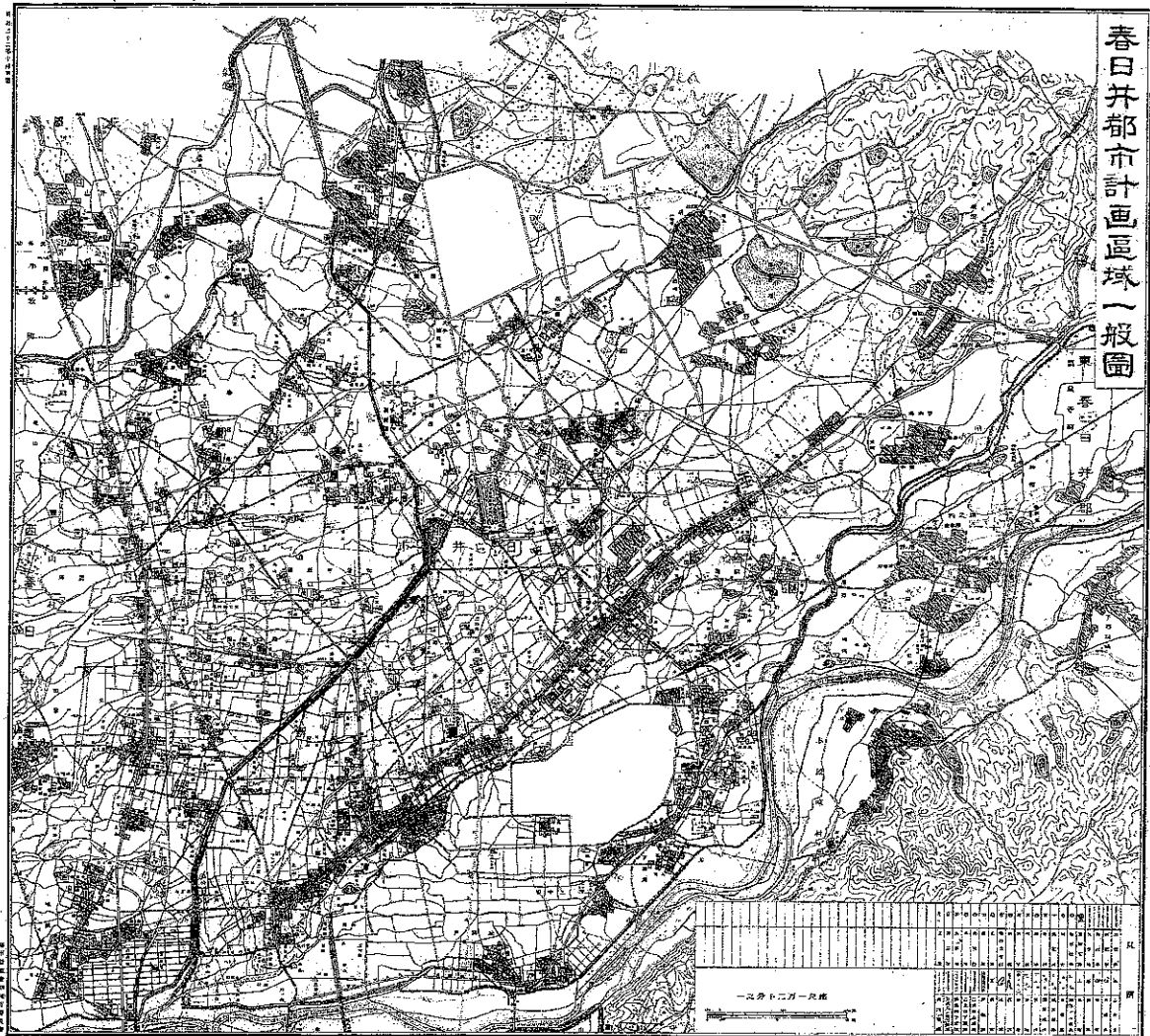


図2-5-5 春日井都市計画区域一般図（都市計画愛知県地方委員会）  
 （昭和22年10月測図 個人蔵）

# INFORMATIONS FROM KASUGAI CLUB

## 編 集 余 記

2月16日に定例のJA2YDX フィールドミーティングが行われ、今月は「1200Mhz アンテナの製作体験」をテーマにJA2CAY 会長からの材料支給の元で行われました



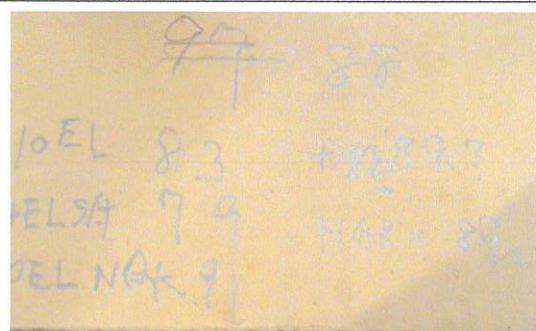
JA2CAY 会長から説明



ハンダ付けに集中のJS2NQG



電界強度測定



観にくいですが測定結果です

CQかすがい

NO、646号

令和07年3月9日 (毎月1回発行)

発行 春日井アマチュア無線クラブ

発行者 JA2EQ・高蔵寺町  
JA2GBA・勝川町

JA2CAY・小木田町  
JI2DQT・高蔵寺

JA2DRK・守山区  
JO2IKG・藤山台

編集、印刷 JA2IDZ・守山区  
JK2RGS・神領町

JA2LAZ・神屋町  
JH2CHI・細野町

JA2SZX・高蔵寺町  
JS2NQG・高蔵寺町